

AI時代にDrupalは不要になるのか？

— DrupalはCMSではなく知識基盤になる —

株式会社メタ・インフォ

井村邦博

2026年6月27日

自己紹介

氏名：井村 邦博（いむら くにひろ）

所属：株式会社メタ・インフォ 代表取締役

Drupal歴：2012年のDrupal 7 から利用、Drupalは14年の経験

経歴：

- 新卒からITエンジニアでスパコン、汎用機、WS、Linux、クラウドを経験
- 経験した言語は、アセンブラ言語、C、Java、Python、PHP
- 学術系の分野が得意(情報を整理・保存・検索)

生活：

- 東京と山口県岩国市に拠点があり 2 拠点生活

AI時代にDrupalは不要になるのか？

昨今の生成AIの登場で、文章作成、画像生成、翻訳、HTML、CSSなどのコード生成が自動化されつつあります。

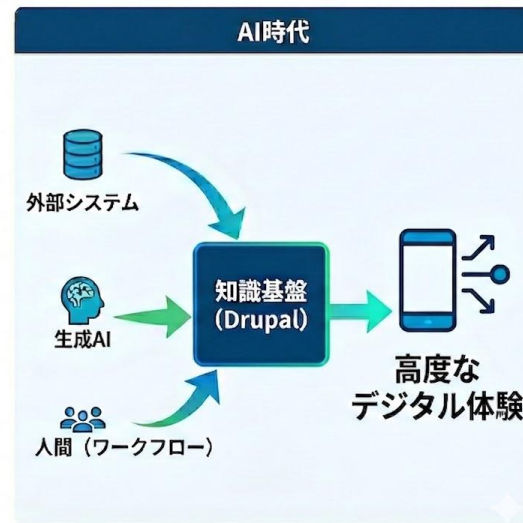
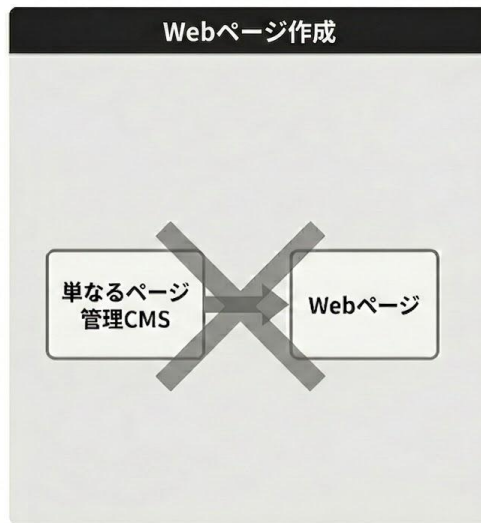
私自身は、日々利用する中で、CMS・Drupalは本当に必要なのか疑問を持っていました。



結論

不要になるのは、

単にページを作って
公開するだけのCMS。



しかし、Drupalの特徴である、情報を構造化し、権限やワークフローを管理し、外部システムやAIと連携する基盤としての役割はむしろ重要。

Drupalは、AI時代の知識基盤・デジタル体験基盤として利用することで重要なCMSとなります。

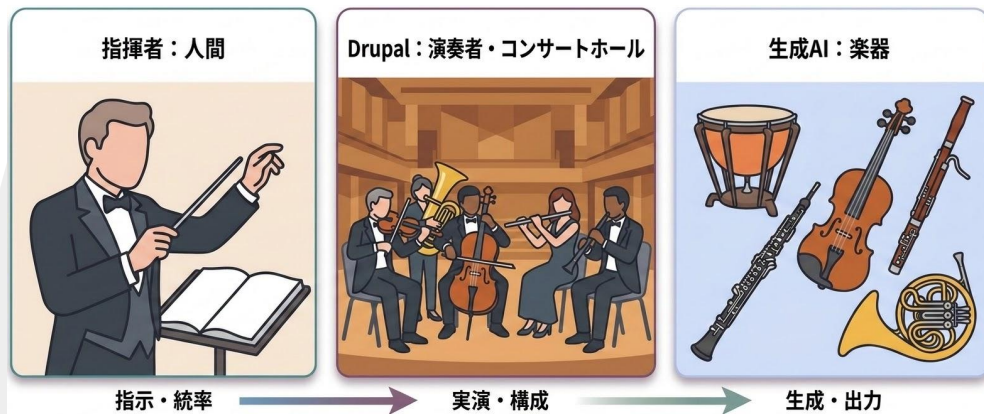
人間 Drupal 生成AI



人間・Drupal・生成AI

私は当初はAIはツールであると考えていました。

しかし、社員が利用している中で気がついたのは、AIは「楽器」のようなものだということです。同じ楽器でも、演奏者によって美しい音楽にもなれば、雑音にもなります。また、演奏者は指揮がないと統率がとれません。AIも同じです。



人間の位置づけ

AIには大きな可能性がありますが、あくまで「楽器」のようなもので、最終的に以下のようなことを判断するには、人間が行うべきです。

そして、サポートしていくのがDrupalになります。

- 情報のソース
- 情報の正しさ
- 公開する範囲
- 表現の正しさ
- 情報の責任

Drupalがもつ 3 つの特徴



コンテンツ面の特徴

1. CMSの枠を超えるFMS（フィールド・マネジメント・システム）

コンテンツに入力する項目単位に型、必須、既定値、ヘルプテキスト、権限を管理することが可能

構造化されたコンテンツの作成が可能

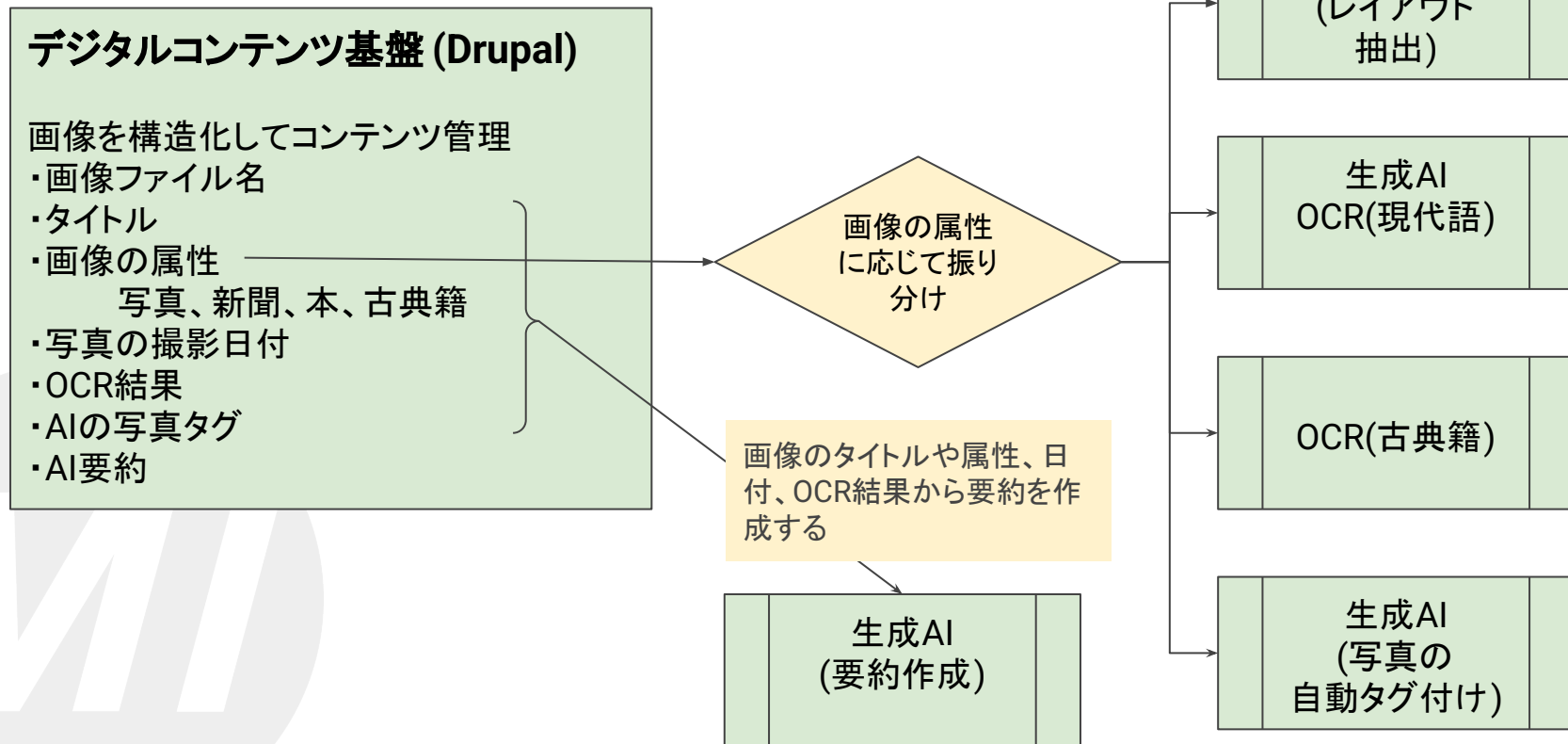
2. 多様なビューに対応（1コンテンツ・マルチビューに対応）

構造化されたコンテンツを様々な形(HTMLページ、JSON、JSONL、CSVなど)でアウトプットが可能

3. 高度な権限管理と柔軟な承認ワークフロー（ガバナンス力）

大人数での複雑な運用を安全にコントロールすることが可能

構造化コンテンツの事例



オープンウェブ

Drupalは、オープンウェブの思想に基づいています。

特定のプラットフォームに依存すると以下のようなリスクがあります。

- 特定企業への依存(ベンダーロックイン)
- データの囲い込み
- アルゴリズムの公平性
- 長期的な持続性への不安(サポート、価格面)

Drupalはオープンソースとして、特定企業に依存しないオープンなWebを支えています。

AI時代だからこそ、オープン・透明性・長期的な運用を支える基盤が必要です。

デジタル体験基盤の特徴

これからは単にページを公開するだけではなく、Web上での体験基盤(DXP)としてDrupalが利用できます

- 検索
- SNS
- ポータルサイト
- 会員管理
- デジタルコンテンツ管理
- レcommend
- AIチャット
- などなど



Drupalは、これらをつなぐ中心となり得ます。つまり、コンテンツを管理するだけではなく、利用者にどのような体験を届けるかを設計することができ、いろいろな情報・知識と利用者体験をつなぐDXP基盤といえます。

結論



結論

AI時代にDrupalは不要になるのか？

答えは「No」です。むしろ、役割がより重要になります。

Drupalを構造化コンテンツ、オープンウェブ、DXPを支える基盤として考えると、AI時代にこそ、ますます重要になると考えています。

DrupalはAIという楽器を巧みに奏でて、組織の知識と体験という音楽を創り出す演奏者です。そして、人間はその演奏に目的と価値を与える指揮者となります。

ご清聴ありがとうございました



MetalInfo

株式会社メタ・インフォ

<https://www.meta-info.co.jp>